

## 効果検証標準シート使用例（BAJ協力）

### 特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン（BAJ）が ミャンマーでの事業について効果検証標準シート案を用いた例

作成日	現地では20年3月11日作成、 東京本部で4月15日点検、追加
-----	------------------------------------

#### 日本 NGO 連携無償 効果検証シート

#### ◆ 基本情報

国名・案件名	ミャンマー中央乾燥地帯チャパドン郡及びその周辺郡における新規深井戸建設・既設井戸診断修繕による生活用水供給事業
事業費	（支援額）38,052,473円
事業開始日と完了日	2006年2月6日～2008年2月29日
延長の有無	有
効果検証日	2008年2月22日～2008年2月29日
事業の上位目標	村内で容易に水を得られるようにすることで、生活の改善を図る。
事業目的	ミャンマー中央乾燥地帯チャパドン郡及びその周辺郡において新規深井戸建設と既設井戸修繕により、33ヶ村推定合計36,910人の村民の乾季における水不足を解消すること、村レベルの修理技術向上、効率的井戸管理のための支援によって井戸の長期的維持管理による安定した水供給を実現することをめざす。
事業概要	生活用水取得に困難をきたしている3ヶ村にて新規深井戸建設、1980年代にUNICEF、その他支援により設置されたチャパドン郡を含む周辺4郡にて30か村の井戸の診断修繕作業を行った。（診断作業はボアホールメスを導入）給水施設の長期的維持管理の観点から、対象村に対し技術トレーニングと水管理委員会情報共有ワークショップを行った。2名の専門家を投入し、適宜、有効的な助言を得た。

<p>指標の設定と達成予定 数値</p> <p>数値的な指標の設定が 困難な場合はものさし となる観点を複数記載</p>	<p>(1) &lt;直接目的&gt;</p> <p>□新規建設された井戸の数 水量・裨益者数・水質</p> <p>□診断・修復された井戸の数 水量・裨益者数</p>	<p>(立案時の目標値)</p> <p>3本 水量： 10ガロン（45リットル）/日/人</p> <p>裨益者数：3ヶ村 1,350人</p> <p>水質：良好</p> <p>30本 （うち大規模修繕3本） 水量： 10ガロン（45リットル）/日/人</p> <p>裨益者数： 30ヶ村 35,560人</p>	<p>(事業終了後の達成数値)</p> <p>3本 水量： トンビュー村 27ガロン/日/人 カンイー村 57ガロン/日/人 ダト・ヨウ村 48ガロン/日/人</p> <p>裨益者数：3ヶ村 1,350人 と周辺3ヶ村</p> <p>水質：良好</p> <p>30本 （うち大規模修繕5本） 水量：事業前平均 6ガロン （27リットル）/日/人→事業 後 11ガロン（50リットル）</p> <p>裨益者数： 30ヶ村 38,802人</p>
	<p>(2) &lt;インパクト&gt;</p> <p>水汲みにかかる時間軽減 により余剰時間の増加</p> <p>衛生面の改善（水浴び、洗 濯回数、トイレ用水の増加）</p>	<p>(立案時の目標値)</p> <p>水汲みにかかる時間軽減 労働時間・余剰時間の増加</p> <p>衛生面の改善（水浴び、洗 濯回数、トイレ用水の増加）</p>	<p>(事業終了後の達成数値)</p> <p>約3時間→15分 約半日→一日</p> <p>衛生面の改善（水浴び、洗 濯回数、トイレ用水の増加）</p>
	<p>(3) &lt;自立発展性&gt;</p> <p>水管理委員会の組織・継続の 有無</p> <p>井戸の維持管理技術定着</p>	<p>(立案時の目標値)</p> <p>33ヶ村で有・機能</p> <p>技術トレーニングの実施 水管理委員会の情報共有ワ ークショップ</p>	<p>(事業終了後の達成数値)</p> <p>33ヶ村で有・機能</p> <p>26ヶ村から50名が参加 33ヶ村から62名が参加</p>
<p>外部要因</p>			
<p>他のアクターとの役割分担 の状況</p>	<p>ミャンマー給水担当部局 DDA が村落給水 10 ヶ年計画を策定し、中央乾燥地域で推進中。 当団体では、同地域で 1999 年に活動を開始し、新規深井戸建設 95 本、修繕 128 本 （209 回）の実績あり。</p>		

◎効果検証◎

トインビュー村・カンイエー村・ダドウヨウ村（新規深井戸建設事業の村）

◆ 検証概要

記入日（効果測定日）	2008年2月22日
実施者名	モニタリングチーム（M・M・E、E・E・M、プロジェクトマネージャー森）
検証期間	2007年12月25日～2008年2月21日（約2ヶ月）
事業の総費用の変更	（支援額）38,052,473円 変更無し
指標からみた達成状況	<p>(1) 今回検証した新規深井戸建設を実施した3ヶ村にて、全ての村で十分な水量と良質な水が得られていることを確認した。</p> <p>水量： トインビュー村 2,400gph（27ガロン/日/人）、カンイエー村 2,500gph（57ガロン/日/人）、ダドゥヨウ村 1,800gph（48ガロン/日/人） 裨益者数：3ヶ村 1,350人 →3ヶ村 1,350人と周辺3ヶ村</p>
（事業の成果）	<p>(2) 今回検証した新規深井戸建設を実施した3ヶ村にて行った住民とのインタビューにより水汲み負担の軽減が確認できた。</p> <p>聞き取り調査の結果、水汲みに費やす時間は平均3時間から15分程度に減少。その分、生産活動に従事できる時間が平均半日から一日へ増加へと増加し、収入増加、支出減少との証言を得た。また、水浴びや洗濯の回数など衛生面の改善は、本格的な水不足の季節の前のインタビューだったため成果に結びつく具体的な証言は得られなかった。</p>
	<p>(3) 今回検証した新規深井戸建設を実施した3ヶ村にて、水管理委員会の機能が健全に機能していることを確認し、新しいエンジンポンプも活躍していることを確認</p>
備考	

◆ 項目別効果検証

項目	結果	備考
有効性 （事業目的の達成状況） （「指標からみた達成状況」を基に判断）	A	<p>上記事業の成果から事業目的の達成に貢献したかを検証。 A: 事業目的は達成された、B: 事業目的は一部達成された、達成されたが問題がある C: 事業目的はほとんど達成されていない （必要な場合は理由を付す） 事業目的は達成された。</p>
効率性	A	<p>事業へのインプットが想定されていた効果を生んでいるか。 A: 事業は効率よく行われた、B: 効率性はやや落ちる、C: 効率が悪かった （必要な場合は理由を付す） 想定された以上の効果を生み効率性は極めて高いと言える。</p>
インパクト	A	<p>事業目的が達成されたことにより上位目的が達成されたか。 想定以上の波及効果があったか。 A: 上位目標達成に向けた具体的な変化（住民の意識改革等）・動きが見られる、B: 事業目標自体は達成されたが、上位目的への影響はない、C: 負の影響が見られた （必要な場合は理由を付す） 村落内での新規深井戸建設事業が、水汲みにかかる時間の軽減のみならず、収入の増加と支出の減少にも寄与していることが確認でき、上位目標達成に向けた変化が見られた。</p>
自立発展性	A	<p>実施団体が撤退した後も現地住民等の主体的な協力により事業の効果が発現されているか、発言するために何らかの措置は取られたか。</p>

		<p>A:維持管理体制・活動の持続的運営体制が整っており、自立発展性が期待できる、B:体制の確立、資金の目処等が十分ではないが、当面は継続可能、C:問題が多く、持続性・自立発展性は低い (必要な場合は理由を付す)</p> <p>水管理委員会が組織され、役割分担が決められており、機能している。技術トレーニングを受けたエンジンオペレーターがエンジンのメンテナンス作業を行っており、給水システムの継続性に対する担保となっている。但し、この項目の成果をはかるにはもう少し時間が必要だと思われる。</p>
事業の妥当性	A	<p>事業目的は地域住民のニーズまたは国家政策や国家開発計画/戦略に適合していたか。 A:事業の妥当性は高い、B:事業の妥当性は高くないが認められる、C:事業は妥当性を欠いていた (必要な場合は理由を付す)</p> <p>村落給水担当部局 DDA が村落給水 10 ヶ年計画を策定し、その実施にあたり当団体が協力の要請を受けたこと。この地域の住民が乾季・夏季には水を得るために多大な労力をかけて水汲みをしなければならなかったことから、妥当性は高い。</p>
社会的影響	A	<p>A:女性や社会的弱者が主体的に参加/主要な受益者であった。十分な配慮が見られた、B:女性や社会的弱者への配慮は特にないが、問題はない、C:女性や社会的弱者への配慮はなく、負の影響があった (必要な場合は理由を付す)</p> <p>主に女性の仕事（天秤棒・牛車）であった水汲みの距離が短くなり、重労働が軽減された。牛車を持たない貧困層でも安価で安全な水を安定的に、より近い場所で得られることができるようになったことから女性や社会的弱者が主要な受益者であったと言える。</p>

今後の本部活動への示唆、新規案件に特にフィードバックできる事項

--

## 検証資料

調査方法	新規深井戸建設事業対象村である全ての村 3 ヶ村にて個別インタビューを実施。 (対象：水を汲みに来た村人とエンジンオペレーター)		
面会者リスト	名前	肩書き	所属
	ミヤ・イン	村びと（女性 37 歳）	トインビュー村
	タン・ドー	エンジンオペレーター（男性 25 歳）	トインビュー村
	アウン・ジー	村びと（女性 58 歳）	カンイエ村
	ナイン・ウイン	エンジンオペレーター（男性 29 歳）	カンイエ村
	ヌ・ヌ・ウイン	村びと（女性 28 歳）	タトーヨー村
テイン・ウイン	エンジンオペレーター（男性 38 歳）	タトーヨー村	

## ◎効果検証◎

トウィンラ村、西ミーズン村、サパティン村（既設井戸診断修繕事業の村）

### ◆ 検証概要

記入日（効果測定日）	2008年2月29日
実施者名	モニタリングチーム（M・M・E、E・E・M、プロジェクトマネージャー森）
検証期間	2007年9月20日～2008年2月28日（約5ヶ月）
事業の総費用の変更	（支援額）38,052,473円 変更無し
指標からみた達成状況  （事業の成果）	<p>(1) 既設井戸診断修繕を行った30ヶ村のうち、今回検証した3ヶ村にて、全ての村で十分な水量が得られていることを確認した。 トウィンラ村（2,500gph, 23ガロン/日/人）、西ミーズン村（2,000gph, 14ガロン/日/人）、サパティン村（2,500gph, 11ガロン/日/人）</p> <p>(2) 既設井戸診断修繕を行った30ヶ村のうち、今回検証した3ヶ村にて、住民とのインビューにより水汲み負担の軽減と波及効果が確認できた。 聞き取り調査の結果、井戸の揚水量が復旧した結果、水汲みに費やす時間は平均2時間から30分程度に減少。その分、生産活動に従事できる時間や休む時間が増加したと証言を得た。また、水浴びや洗濯の回数など衛生面の改善は、本格的な水不足の前のインビューだったため成果に結びつく具体的な証言は得られなかった。揚水量が復旧したことによりパイプラインをひき小学校への配水を予定しているとの証言も得た。</p> <p>(3) 既設井戸診断修繕を行った30ヶ村のうち、今回検証した3ヶ村にて、水管理委員会の機能が健全に機能していることを確認した。ホールの訪問により井戸孔の中をモニターで確認し、井戸の診断修繕を行なったことによりメンテナンスの重視という意識向上の変化が見られた。</p>
備考	

### ◆ 項目別効果検証

項目	結果	備考
有効性 （事業目的の達成状況） （「指標からみた達成状況」を基に判断）	A	<p>上記事業の成果から事業目的の達成に貢献したかを検証。 A: 事業目的は達成された、B: 事業目的は一部達成された、達成されたが問題がある C: 事業目的はほとんど達成されていない （必要な場合は理由を付す） 通常、井戸の修繕により揚水可能となる水量は、1,000～1,500gphであるから十分な効果があったと言え、事業目的は達成された。</p>
効率性	A	<p>事業へのインプットが想定されていた効果を生んでいるか。 A: 事業は効率よく行われた、B: 効率性はやや落ちる、C: 効率が悪かった （必要な場合は理由を付す） 想定された以上の効果を生み効率性は極めて高いと言える。</p>
インパクト	A	<p>事業目的が達成されたことにより上位目的が達成されたか。 想定以上の波及効果があったか。 A: 上位目標達成に向けた具体的な変化（住民の意識改革等）・動きが見られる、B: 事業目標自体は達成されたが、上位目的への影響はない、C: 負の影響が見られた （必要な場合は理由を付す） 村落内での既設井戸診断修繕事業が、新規深井戸建設事業に比べその効果は少ないものの、水汲みにかかる時間の軽減のみならず、収入の増加</p>

		と支出の減少にも寄与していることが確認でき、上位目標達成に向けた変化が見られた。	
自立発展性	A	<p>実施団体が撤退した後も現地住民等の主体的な協力により事業の効果が発現されているか、発言するために何らかの措置は取られたか。</p> <p>A:維持管理体制・活動の持続的運営体制が整っており、自立発展性が期待できる、B:体制の確立、資金の目処等が十分ではないが、当面は継続可能、C:問題が多く、持続性・自立発展性は低い (必要な場合は理由を付す)</p> <p>水管理委員会は、役割分担が決められており、機能しており、新規深井戸建設対象村に比べ経験が長い。当該事業により、メソンの重要性に気づきエンジンオペレーターの意識が向上したこと、水管理委員会の透明性を重視するためミーティングの開催頻度が増えたとの証言を得たことにより自立発展性が期待できる。但し、この項目の成果をはかるにはもう少し時間が必要だと思われる。</p>	
事業の妥当性	A	<p>事業目的は地域住民のニーズまたは国家政策や国家開発計画/戦略に適合していたか。</p> <p>A:事業の妥当性は高い、B:事業の妥当性は高くないが認められる、C:事業は妥当性を欠いていた (必要な場合は理由を付す)</p> <p>村落給水担当部局 DDA が村落給水 10 ヶ年計画を策定し、その実施にあたり当団体が協力の要請を受けたこと。この地域の住民が乾季・夏季には水を得るために多大な労力をかけて水汲みをしなければならなかったことから、妥当性は高い。</p>	
	社会的影響	A	<p>A:女性や社会的弱者が主体的に参加/主要な受益者であった。十分な配慮が見られた、B:女性や社会的弱者への配慮は特にないが、問題はない、C:女性や社会的弱者への配慮はなく、負の影響があった。 (必要な場合は理由を付す)</p> <p>主に女性の仕事(天秤棒・牛車)であった水汲みの距離が短くなり、重労働が軽減された。牛車を持たない貧困層でも安価で安全な水を安定的に、より近い場所で得られることができるようになったことから女性や社会的弱者が主要な受益者であったと言える。</p>

今後の本部活動への示唆、新規案件に特にフィードバックできる事項

--

## 検証資料

調査方法	既設井戸診断修繕事業の対象であった 30 ヶ村のうち 3 ヶ村にて個別インタビューを実施。(対象:水管理委員会メンバーと水を汲みに来た村人とエンジンオペレーター)		
面会者リスト	名前	肩書き	所属
	チ・タン	水管理委員会メンバー(男性 35 歳)	トインラ村
	バ・モウ	エンジンオペレーター(男性 62 歳)	トインラ村
	チョウ・ミン・ソウ	村長(男性 43 歳)	西ミースン村
	エ・カイン	村びと(女性 38 歳)	西ミースン村
	タン・カイン	水管理委員会代表(男性 60 歳)	サパティン村
	キン・ニョ	村びと(男性 61 歳)	サパティン村



◆ 本部記入

<p>今後の方向性・課題と改善策</p>	<p>本効果検証を踏まえ、今後の方向性、課題への対処方法、フィードバック情報等を記載する。</p> <p>今後は、現地側が井戸を長く大切に使うことが大事となる。本事業で実施した村人対象のトレーニングは重要だった。井戸は数年～数十年のタイムスケールの井戸の寿命全体をかんがみ、適正に維持管理していく必要がある。技術面においては、トレーニングで学んだ知識と実際の状況の中での実践力をつけて、揚水ポンプやエンジンの操作や定期点検をしていくために、村の中で数人で知識やノウハウを継承していくことが必要であろう。一方で、料金の徴収と水の配給といった経済的なサイクルがうまく機能していくように今後とも確認していく必要がある。</p> <p>また井戸が不具合が生じて修繕が必要な場合には、村内では解決できないので、技術と設備を持った専門性の高い数人のグループ（ローカルメンテナンスチーム）が必要になる。このローカルメンテナンスチームを育成していくことで、自立性を強固にしていくことができるであろう。</p>
----------------------	--